

夏秋トマトにおけるトマトハモグリバエの発生生態

福島県農業試験場 病理昆虫部
平成15年度農業試験場試験研究成績概要

1 部門名

野菜―トマト―病害虫防除
分類コード 03-04-22000000

2 担当者

佐々木正剛・中村 淳

3 要 旨

本県では、2003年8月にトマトハモグリバエの発生がトマトで初めて確認され、その後、発生は県内全域に拡大した。2004年に試験場内でも本種の発生が確認されたため、場内トマト栽培ハウス(品種:桃太郎8、定植:5月27日)において、6～10月までハモグリバエ類成虫の誘殺数および幼虫の潜入痕数などを調査した。

- (1) ハモグリバエ類の種類は、5月はナスハモグリバエ、6月はナスハモグリバエとトマトハモグリバエの混発、7～10月までは全てトマトハモグリバエであった。
- (2) トマトハモグリバエの寄生蜂は、6～9月までは全く発生しなかった。10月に発生が確認されたが、その寄生率は0.1%であった。
- (3) 黄色粘着トラップにおいて、ハモグリバエ類成虫は6月6半旬から誘殺された。誘殺数は6～8月は少なく、9～10月が多かった。誘殺種は7月まではナスハモグリバエ、8月以降はトマトハモグリバエであった。
- (4) 潜入痕は6月中旬から確認され、潜入痕数は9月上旬までは株当たり25個以下で推移したが、その後急増し、9月下旬に発生ピーク(約300個/株)がみられた。
以上のことから、夏秋トマトではトマトハモグリバエが優占種であり、本種は6月中旬から発生し、発生
- (5) ピークは9月下旬であった。本種が多発した一因として、寄生蜂の発生が少ないことが考えられた。

4 その他の資料等

なし